

第8章 進捗管理



8.1 水道ビジョン 野田の策定に当たっての留意点

これからも一層、人口減少に伴う水需要の減少や水道施設老朽化の進行など、水道事業を取り巻く環境は大きく変化していくことが予想されております。

また、地震や気候変動など抗うことのできない変化や水質事故など、これまでに経験のない予測不能なリスクも予想されております。

こうした環境の変化や予測不能なリスクは、時代の流れとともに著しく変化していくことを、これまでの事象を踏まえて実感しているところであります。

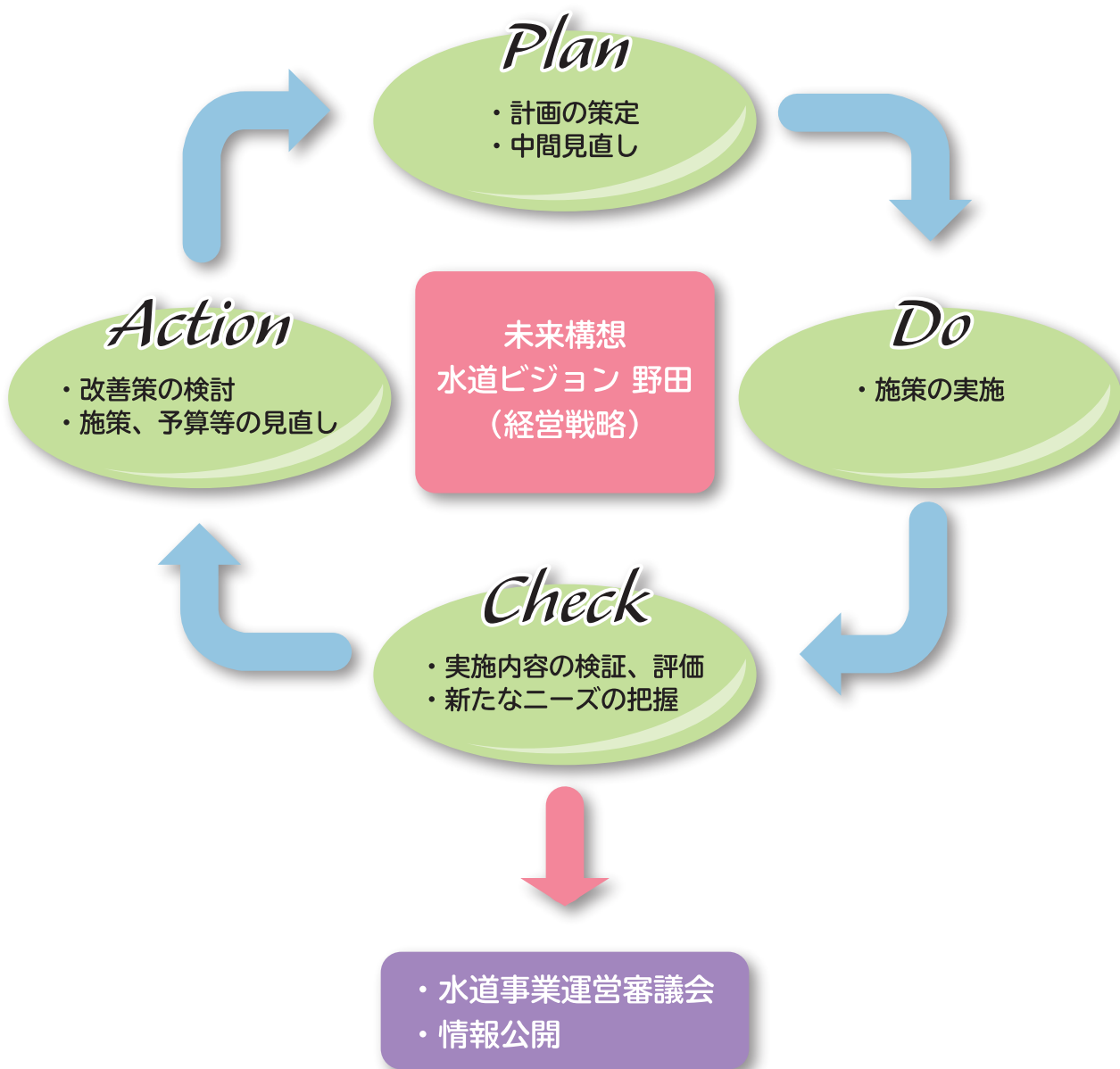
しかし、水道事業に携わる立場は、市民や事業者の皆様へ安全かつ低廉で安定した水を供給し、ライフラインの最も大切な要素である「絶え間なく送り続ける継続性」、そして「将来にわたる継続性」を担保できるよう取り組んでいくことが最大の責務であると考えます。

この最大の責務を果たすために、「計画の立案→立案した計画の実施→実施した事業の評価→有効性の確認及び見直し→計画の立案・・・」という、いわゆるPDCAサイクルにより、臨機応変に社会状況や環境の変化に対応することが重要と考えます。

8.2 PDCAサイクルの実施

「水道ビジョン 野田」の推進に当たっては、目標の達成状況を定期的に検証・評価し、実施手法の改善策や計画の見直しなどに反映させる進捗管理が必要です。

進捗管理は、計画、実施、検証及び評価、改善及び見直しの一連の流れとしたPDCAサイクルにより行います。



8.3 進捗状況の公表

「水道ビジョン 野田」の取組に対する進捗状況や評価結果については、水道事業運営審議会に報告するとともに、ホームページ等を通じて市民の皆様に情報を公開します。

8.4 計画の見直し

「水道ビジョン 野田」は、令和2年度から令和16年度までの15年間において取り組むべき主要施策及び具体的な取組を示したものですが、計画推進期間（令和2年度から令和11年度まで）の中間点（おおむね5年）において本計画の見直しを実施します。

また、社会・経済情勢の変化や経営環境の影響等により、個々の具体的な取組について見直しの必要が生じた場合には、適宜見直しを実施します。